

ニスクカラー Pro®

NIPPON STEEL 日鉄鋼板株式会社

お問い合わせ先

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号 第10中央ビル

TEL.03-6848-3900

<http://www.nisc-s.co.jp>

本社・鋼板営業第一部	TEL.(03)6848-3710 (代)	FAX.(03)6848-3757
東北支店	TEL.(022)264-9861 (代)	FAX.(022)264-9866
東京支店	TEL.(03)6848-3837 (代)	FAX.(03)6848-3838
名古屋支店	TEL.(052)564-7258 (代)	FAX.(052)564-4759
大阪支店	TEL.(06)6228-8330 (代)	FAX.(06)6228-8506
九州支店	TEL.(092)281-0051 (代)	FAX.(092)281-0230
北陸営業所	TEL.(076)432-9898 (代)	FAX.(076)442-2924

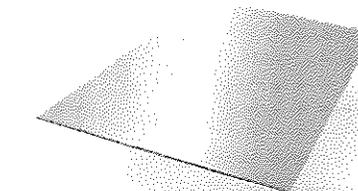
※記載された試験データは当社で実施した試験データの一部であり、その結果を保証するものではありません。

※本資料に掲載されている仕様等は、予告なく変更することがあります。

※本資料に記載された製品または役務の名称は、当社の商標または登録商標です。

※本資料に記載された内容の無断転載や複写はご遠慮ください。

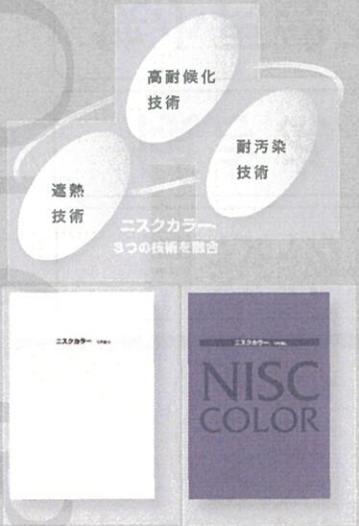
Advanced corrosion resistance allows for
usage in harsh environments such as
areas near exhausts or in heavy chemical industrial zones.
It is also effective for use in hot exchangers in process
the corrosion that has been increasingly noticeable in
recent years due to acidic environments.
In addition, its advanced heat shield properties contribute to
energy conservation by reducing indoor rises in temperature.



ニスクカラー Pro
次世代カラーパワースチール
SGL®

CONTENTS

- ニスカラー Proの特長 ……3-6
- ニスカラー Pro GHの特長 ……7-9
- ニスカラー Pro GCの特長 ……10
- 遮熱機能 ……11
- 耐汚染機能 ……12
- その他諸性能・仕様など ……13
- 保証について ……14
- カラーバリエーション ……15-16
- 使用上のご注意 ……17-21
- メンテナンス ……22



2008 ニスカラー

NISC統合記念商品としてニスカラーを発売。
業界に先駆けて遮熱・耐汚染機能を標準装備。
一般カラー鋼板の高機能化をスタンダードにした。

2019

ニスカラー Pro®

新時代のカラー鋼板、誕生



● 膨大な曝露調査・促進試験

全国9カ所の屋外曝露試験場で数万枚にも及ぶ調査を繰り返し、鋼板の性能を調査。また研究所内の促進試験でも長年に渡り実績を確認している。

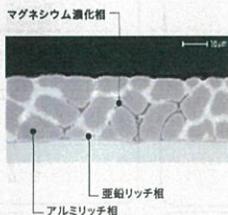
● 耐摩カラーの技術 (1977 ~)

独自の特許技術で塗膜にガラス繊維を配合。高い耐傷付性を実現した。その膜がニスカラー Proへ受け継がれている。



● エスジーエル (2013 ~)

30年ぶりの技術革新で誕生した次世代ガルバリウム鋼板。ガルバリウム鋼板のめっきにマグネシウムを添加し耐食性が飛躍的に向上。



2013 エスジーエル
ニスカラー SGL®

原板にエスジーエルを採用し穴あき25年保証を実現。さらなる高機能化へ。

実績のあるニスカラーの塗膜をより進化させ、次世代ガルバリウム鋼板「エスジーエル」と組み合わせることで長期の美観維持を実現するとともに、耐傷付性を向上させ取扱いの利便性を高めることに成功しました。ニスカラーProは金属外装材のさらなる活用シーン拡大や建築主の満足度向上に貢献します。

● 変退色15年保証 (ふくれ・はがれ、海岸500m以遠)

業界初、つやあり色も含めた全色に塗膜保証15年を付与。エスジーエルとの相乗効果による抜群の耐久性で長期にわたり安心してお使いいただけます。

ニスカラーProには、建築物に応じた2つの塗装タイプが用意されています。変退色保証を可能にした塗膜の採用により美観維持に優れ、低光沢の美しい外観のGHシリーズ、様々な用途に応える豊富なカラーバリエーションと高い基本性能を備えたGCシリーズ。多彩なカラーラインナップから、屋根・外壁をはじめ、多様な建築物にご使用いただけます。

ニスカラー Pro® GH

■ 変退色15年保証

これまでフッ素塗装鋼板でしか実現しなかった変退色保証を付与しました。長期にわたり美観を保ちます。

■ 優れた意匠性

光沢を抑えた落ち着いた外観により重厚で高級感のある建築物に仕上がります。

ニスカラー Pro® GC

■ 耐傷付性向上

独自の塗膜強化技術により従来品とくらべて耐傷付性が向上しました。取扱い時の加工傷・施工傷を軽減し安心してお使いいただけます。

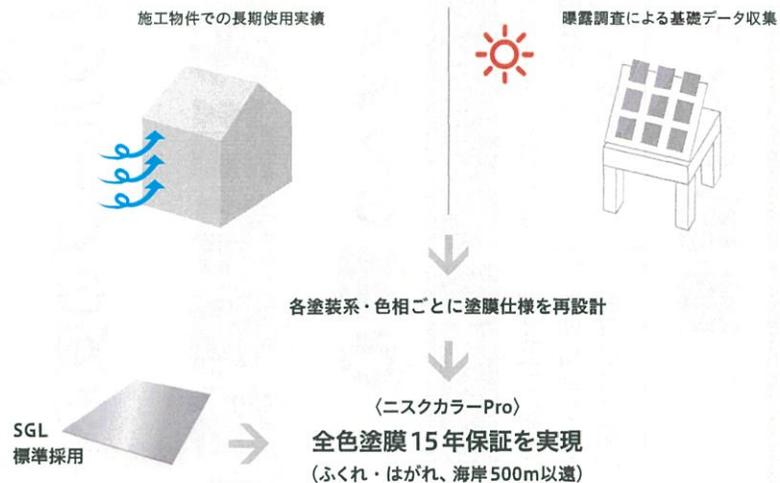
保証には別途条件があります。また保証適用には事前の申請が必要です。

ニスカラーPro 由来

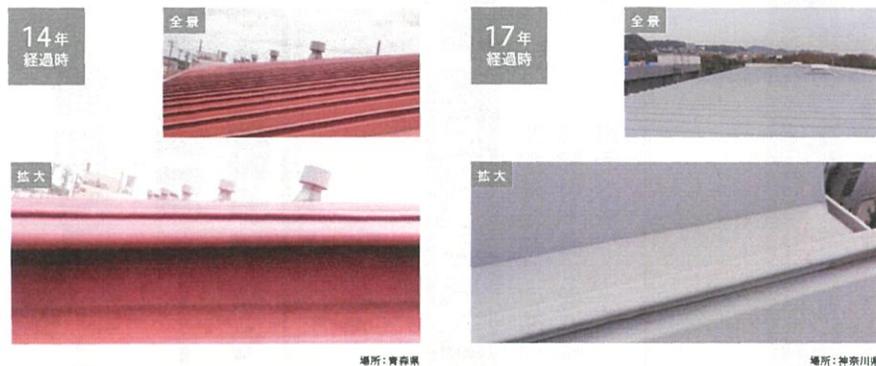
「ニスカラーPro」上市に当たり、より進化した「ニスカラー」であることを端的にお伝えするため、「進化した(Progress)」を想起させる「Pro」と組み合わせ、「ニスカラーPro」と定め、業界をリードする製品にしたいという思いを託しました。

ニスカラーProの特長

塗膜保証実現のためのプロセス



施工物件での長期使用実績



様々な異なる環境の施工物件で追跡調査を実施しています。上記写真はニスカラー発売前の従来カラー品での施工物件ですが、平面部・加工部とも良好な状態を保っていることを確認しました。実際の物件での使用で塗膜・原板にどのような変化が起きているかを日々調査し、長期使用に耐えられる製品の開発に活かしています。

ニスカラー Pro.

曝露調査による基礎データ収集

当社では、様々な環境での使用を可能にすべく日本全国9ヶ所で屋外曝露試験を実施し、塗膜劣化の挙動等の基礎データを蓄積しています。促進試験のデータに加えて、屋外曝露で得られた豊富な基礎データを基にして継続的に改良検討を行っています。また、屋外曝露では常に製品の品質についてもモニタリングを行っています。

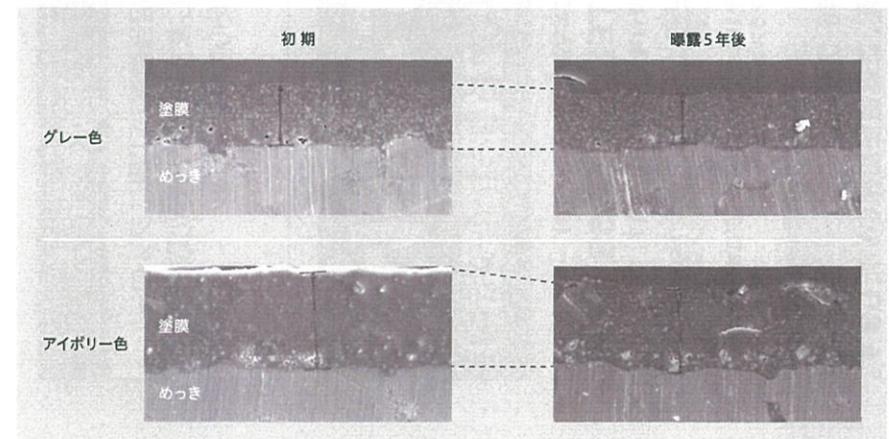
【屋外曝露試験場】



	緯度	経度	離岸距離
江別	43.1°	141.5°	23km
長岡	37.4°	138.8°	25km
直江津	37.2°	138.3°	1km
船登	37.3°	137.3°	30m
船橋	35.7°	140.0°	1.5km
尼崎	34.7°	135.4°	3km
堺	34.6°	135.5°	500m
名護	26.6°	128.0°	25m
宮古島	24.4°	125.2°	2km

ニスカラー各色の沖繩曝露での塗膜減耗状態 (断面観察)

下の写真はカラー鋼板断面の顕微鏡写真です。経年で塗膜は減耗していきますが、色相によりその減耗具合は異なります。このように、色相ごとに実際の塗膜劣化状態を地道に調査し、それぞれ最適な設計に改良しています。



ニスクカラーProの特長

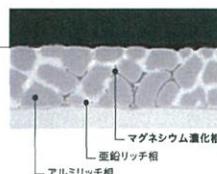
エスジーエルとは？

エスジーエルは、ガルバリウム鋼板のめっき構造を引き継ぎつつ、マグネシウム添加により耐食性が向上した次世代ガルバリウム鋼板です。とくに厳しい腐食環境で優れた耐食性が期待できます。

5.5%Al + 2%Mg

エスジーエルのめっき構造は、ガルバリウム鋼板の高耐食性を支える「三次元網目構造」を維持しながら、2%のマグネシウムを添加。亜鉛リッチ相にマグネシウム濃化相が共存する構造になっています。

マグネシウムは亜鉛リッチ相と共存し、より緻密な亜鉛酸化皮膜を作る効果を持ちます。



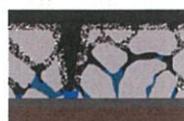
エスジーエルの耐食性向上メカニズム

エスジーエルは、マグネシウムの防錆効果を付加したことで、ガルバリウム鋼板特有の耐食メカニズムを活かしつつ、耐食性をさらに強化しためっき組成を有しています。エスジーエル独自の耐食性向上メカニズムにより、平面部はもちろん、とくに切断端部や傷部において高い耐食性を発揮します。

厳しい腐食条件 厳しい腐食条件下で違いが歴然。エスジーエル独自の耐食性向上メカニズム。

3倍超

エスジーエル



緻密な保護皮膜を形成し、亜鉛リッチ相の消耗を抑える。



アルミ系酸化生成物の充満を助けるとともに亜鉛リッチ相を遷移。

ガルバリウム鋼板



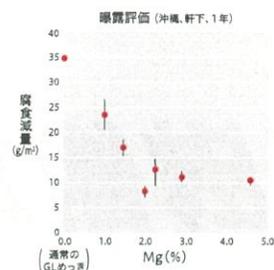
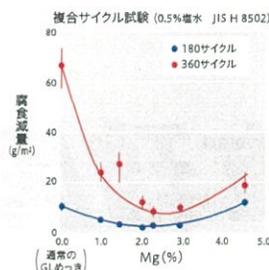
厳しい腐食条件下では亜鉛リッチ相が急激に消耗。



アルミ系酸化生成物が充満される前に犠牲防食作用が働かなくなり、腐食が進行してしまう。

最適バランス「マグネシウム2%」

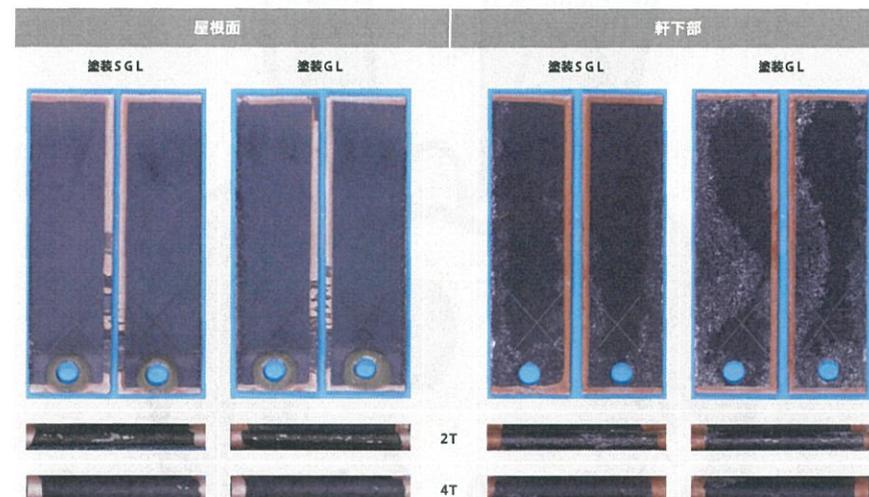
エスジーエルに添加するマグネシウムは、めっきの耐食性を最大限に発揮できる含有率「2%」に調整されています。試験および曝露評価によって耐食性の検証を重ね、2%が耐食性向上に最適バランスであることを確認しています。



エスジーエルと塗装の組み合わせ

塗装SGLの長期曝露耐食性 (糸魚川 約10年)

エスジーエルは塗装鋼板の下地としても優れた特性を持っています。下の写真は同じ塗装でSGLとGLを比較したのですが、SGLはGLと比べ、とくに端面腐食の抑制効果がわかります。軒下部は雨がかりしにくい厳しい環境ですがSGLはGLと比べ優れた結果が出ています。



板厚:0.80mm 塗装:一般カラー

コラム 当社がめっき原板にもこだわる理由 ~塗装だけでは腐食促進物質を完全に遮断できない~

耐食性向上という観点から、塗装や防錆塗料の設計は非常に重要ですが、一般的に塗膜は腐食促進物質(水、酸素、塩素等)の侵入を「抑制」することができても「完全に遮断」することはできない(透過する)ことが知られています。また、塗装の経年劣化による遮断機能の低下や傷が生じてしまった場合、そこを起点に腐食が進行してしまうことも考えられます。つまり、**塗膜だけで腐食の進行を抑制するには限界があり、めっきの耐食性向上が非常に重要**になります。

ラックの入った曲げ加工部だけでなく、クランクも傷まないはずの「平面部」からも多数の白錆発生が確認されます。これは、平面部の塗膜下に腐食促進物質が侵入し腐食が進行したことを示唆します。一方で、**(b)塗装SGLは平面部での白錆発生を抑制していることが確認できます。これは、めっき原板(エスジーエル)の耐食性が高く、塗膜下での腐食を抑制している**と考えられます。

以上のことから当社は、お客様により長く、より安心してご使用いただくために、塗膜のみならずめっき鋼板にもこだわりを持ち、トータルで耐久性の高い塗装鋼板の設計を行っています。

一例として、右の写真は同一壁面に塗装GLと塗装SGL(両者の塗膜は同じもの)を張り合わせて施工した物件の経年観察結果です。**(a)塗装GLは、塗膜にク**

実物件調査の結果 (新潟県佐渡市、離岸距離約60m、軒下部、5年経過)

(a) 塗装GL: 平面部からの白錆が多く見られる



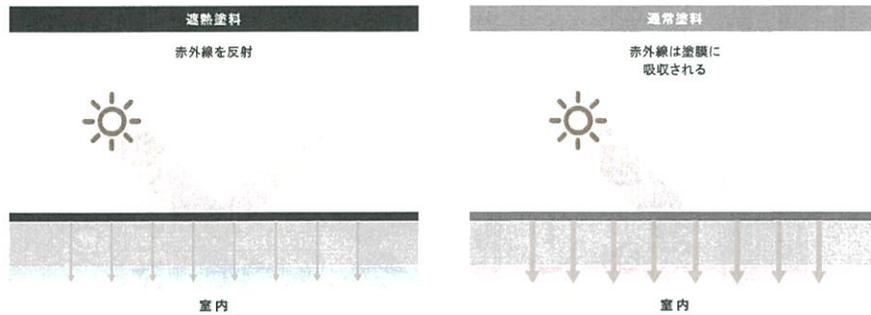
(b) 塗装SGL: 平面・加工部の耐白錆性向上



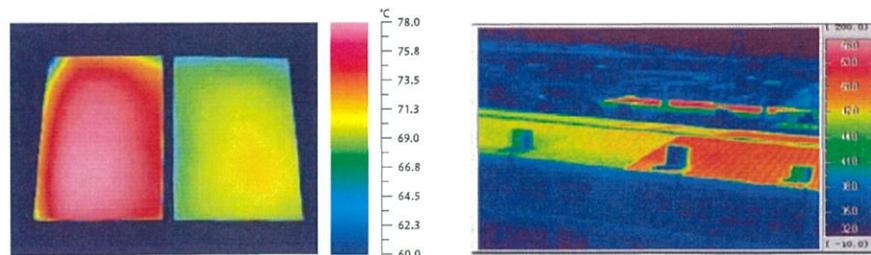
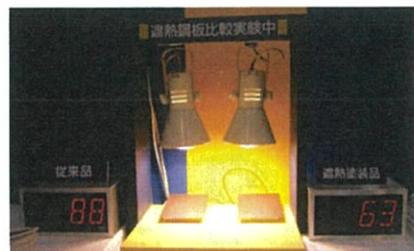
遮熱機能（屋根用色）

遮熱機能のメカニズム

ニスカカラーPro 屋根用色の塗膜には日射に含まれる赤外線を反射する「遮熱顔料」を配合。赤外線による塗膜表面の温度上昇を抑えることで鋼板への熱伝導を軽減する塗膜設計となっています。当社はこの遮熱メカニズムを適用した塗装鋼板を日本で初めて商品化した遮熱鋼板のバイオニア企業です。



遮熱鋼板の実測例



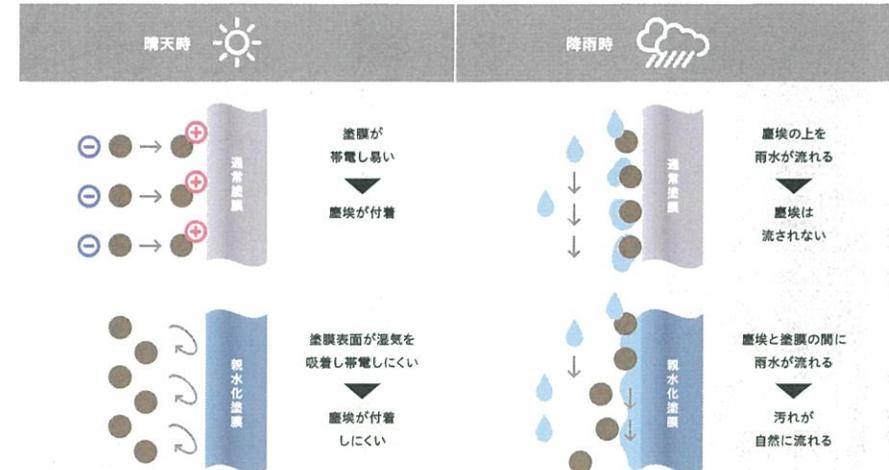
白熱灯ランプ照射やサーモグラフィーによる温度測定を行っています。色相により異なりますが、黒色系では遮熱機能の有無により約20℃の温度差が生じました。

耐汚染機能（壁用色）

ニスカカラー Pro。

雨筋汚れ防止メカニズム

塗料に親水化剤（シリケート化合物）を配合することで、塗膜表面に親水化剤の濃化相を形成。空気中の水分で加水分解されることで親水基が生成されます。この親水基により水が馴染みやすくなることで降雨や水洗いで汚れが洗い落とされやすくなります。また塗膜表面が帯電しにくくなることから塵埃が付着しにくくなります。



雨筋汚染性評価結果

鋼板サンプルを屋外に設置し、表面に雨筋が付きやすいように調整した再現実験で雨筋汚染性を評価しました。その結果、ニスカカラーPro 壁用色の耐汚染機能は優れた効果を発揮しました。



耐汚染機能の有無を比較した写真。右の写真には雨筋汚れがついている

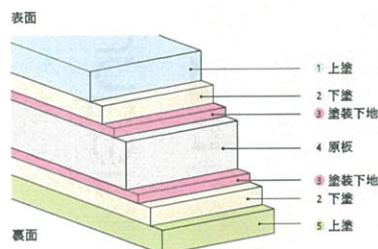
その他諸性能・仕様など

その他諸性能

注)試験データは、当社内試験での標準データであり、保証値ではありません。

項目	試験方法	試験結果		
		GH	GC	
耐薬品性	苛性ソーダ	異常なし	異常なし	
	塩酸	5%水溶液浸漬、48時間	異常なし	異常なし
	硫酸	異常なし	異常なし	
耐ガス性	亜硫酸ガス	異常なし	異常なし	
	アンモニアガス	100%、20℃、48時間	異常なし	異常なし
	アセトン	異常なし	異常なし	
耐溶剤性	シンナー	溶剤浸漬、1000時間	異常なし	異常なし
	エタノール	異常なし	異常なし	
	折り曲げ (20℃)	180°曲げ	0T異常なし	0T異常なし
加工性	折り曲げ (20℃)	180°曲げクラック	5Tクラックなし	7Tクラックなし
	折り曲げ (-5℃)	180°曲げ	0T異常なし	0T異常なし
	折り曲げ (-5℃)	180°曲げクラック	7Tクラックなし	8Tクラックなし
	衝撃	20℃	異常なし	異常なし
密着性	衝撃	20℃	異常なし	異常なし
	碇盤目エリクセン	-5℃	異常なし	異常なし
		沸水6時間	異常なし	異常なし
耐熱性	100℃	1000時間	異常なし	異常なし
	塗膜硬度	鉛筆硬度	JIS G3322による	合格

ニスクカラーProの塗膜の構成



- 1 上塗塗膜 (ポリエステル樹脂) は全色で塗膜の経時劣化を考慮した塗膜設計を行っています。
- 2 下塗塗膜は鋼板とポリエステル樹脂塗膜の密着性及び防錆機能に配慮した設計としました。
- 3 塗装下地はエスジーエルに適した化成処理皮膜としました。
- 4 原板はガルバリウム鋼板の3倍超の耐食性を持つエスジーエルを採用しました。
- 5 裏面のサービスコートは2コートとして耐食性を向上させるとともに、各種接着剤との密着性に配慮しました。

標準仕様

項目	仕様
製品形状	コイル
原板の種類	エスジーエル (2%Mg添加ガルバリウム鋼板)
厚さ	0.27 ~ 1.2mm
幅	610 ~ 1219mm
めっき付着量記号	AZ150

納期、ロット等はお問合せください。

JIS G3322規格品
不燃材認定 NM-8697

保証について

ニスクカラー Pro.

原板に次世代ガルバリウム鋼板「エスジーエル」を標準採用、

塗膜は確かな実績のニスクカラーをベースにNISCの技術を結集することで長期保証を実現しました。

保証対象範囲イメージ



ニスクカラー Pro. GH

塗膜 変退色 最長 15年

海岸 500m 以遠

ふくれ・はがれ 最長 15年

原板 穴あき 最長 25年

ニスクカラー Pro. GC

塗膜 ふくれ・はがれ 最長 15年

海岸 500m 以遠

原板 穴あき 最長 25年

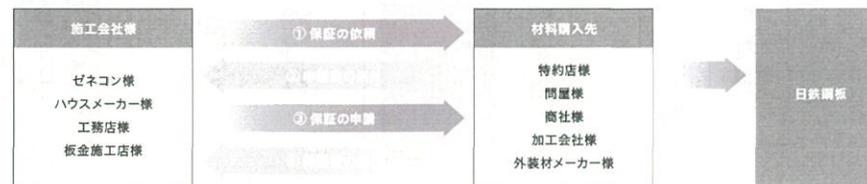
メーカー保証

当社指定の保証書発行申請書により、当社から保証書の発行を受けた方に適用します。

なお、保証適用には保証書の保持を必要とします。

保証には別途条件があります。くわしくは販売店様へお問合せください。

保証書発行の流れ



ニスクカラー Proには、建築物に応じた2つの塗装タイプが用意されています。プレミアム感が高く美観保持にも優れるGHシリーズ、様々な用途に応える豊富なカラーと高い基本性能を備えたGCシリーズ。全34色の多彩なカラーラインナップから、屋根・外壁をはじめ、多様な建築物にご使用いただけます。

ニスクカラー Pro. GH

つや消し

			
GHN23 S コゲチャ JIS 5類 マンセル値: 6.7YR 2.7/0.6 日射反射率: 42%	GHG04 S モスグリーン JIS 5類 マンセル値: 2.4G 2.9/1.1 日射反射率: 43%	GHR25 S レッドブラウン JIS 5類 マンセル値: 9.5R 3.0/4.0 日射反射率: 45%	GHR38 S ブリックレッド JIS 5類 マンセル値: 9.2R 3.3/5.0 日射反射率: 46%
			
GHY35 S オレンジ マンセル値: 6.0YR 5.0/0.8 日射反射率: 49%	GHN22 S ブラウン JIS 5類 マンセル値: 7.2YR 2.8/0.9 日射反射率: 42%	GHK01 S ブラック JIS 5類 マンセル値: 5.0PB 2.3/0.4 日射反射率: 41%	GHK02 S ブラックパール JIS 5類 マンセル値: 5.3YR 2.9/0.2 日射反射率: 43%
			
GHB10 S ダークブルー JIS 5類 マンセル値: 10.0B 2.4/2.1 日射反射率: 46%			

ニスクカラー Pro. GC

つや消し

			
GCM37 C マットシルバー マンセル値: 0.1B 6.1/0.4 日射反射率: 56%	GCM16 S いぶし銀 JIS 5類 マンセル値: 3.9Y 3.1/0.4 日射反射率: 41%	GCM36 C ベールゴールド マンセル値: 1.4Y 5.7/1.0 日射反射率: 52%	GCA51 S マットグレー マンセル値: 2.3BG 5.3/0.4 日射反射率: 53%
			
GCB53 S ディープブルー JIS 5類 マンセル値: 6.2B 2.9/4.2 日射反射率: 47%	GCG55 S ロクシヨウ マンセル値: 2.0BG 5.5/3.7 日射反射率: 56%	GCK50 S ファインブラック JIS 5類 マンセル値: 4.8PB 2.1/0.5 日射反射率: 43%	

つやあり

			
GCW07 C ホワイト マンセル値: 8.3G 8.9/0.3 日射反射率: 64%	GCM17 SC シルバー マンセル値: 3.3BG 6.4/0.1 日射反射率: 60%	GCM21 S メタリックブラウン JIS 5類 マンセル値: 7.3YR 2.5/0.9 日射反射率: 42%	GCW12 C ウールホワイト マンセル値: 3.8Y 8.7/0.6 日射反射率: 65%
			
GCG15 C ミントグリーン マンセル値: 2.9BG 6.0/1.7 日射反射率: 59%	GCA20 SC フリントグレー マンセル値: 8.1YR 6.8/0.2 日射反射率: 61%	GCM26 C シルバーブラウン マンセル値: 0.7Y 4.4/1.0 日射反射率: 50%	GCV11 C アイボリー マンセル値: 2.4Y 8.3/1.6 日射反射率: 67%
			
GCN34 C アースブラウン マンセル値: 5.2YR 4.0/4.3 日射反射率: 47%	GCV14 C アイボリーホワイト マンセル値: 7.8Y 8.2/1.1 日射反射率: 59%	GCV13 C クリームベージュ マンセル値: 0.4Y 7.5/1.1 日射反射率: 52%	GCM27 SC ゴールド マンセル値: 0.5Y 4.4/1.9 日射反射率: 50%
			
GCW08 C サンドホワイト マンセル値: 2.6GY 7.7/0.7 日射反射率: 62%	GCR24 S レッド JIS 5類 マンセル値: 0.7YR 2.7/8.5 日射反射率: 48%	GCB09 S ブルー JIS 5類 マンセル値: 4.9B 2.9/5.7 日射反射率: 43%	GCA19 S グレー マンセル値: 2.6BG 5.7/0.5 日射反射率: 56%
			
GCG06 S ウグイス マンセル値: 8.8GY 6.6/2.2 日射反射率: 60%	GCG03 S グリーン JIS 5類 マンセル値: 5.5G 3.0/4.8 日射反射率: 43%		

※ 運熱塗膜製品は色名の前にSが付きます。
 ※ 耐汚染塗膜製品は色名の前にCが付きます。
 ※ 運熱及び耐汚染の両方の機能を付与したものは、色名の前にSCが付きます。
 ※ JIS G3322:2012が定める5類相当品には JIS 5類 マークが付いています。

使用上のご注意 

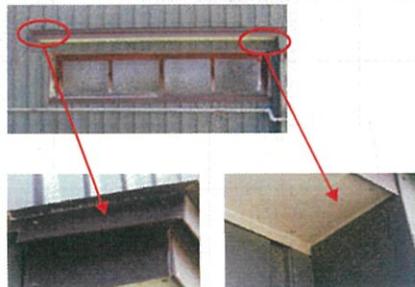
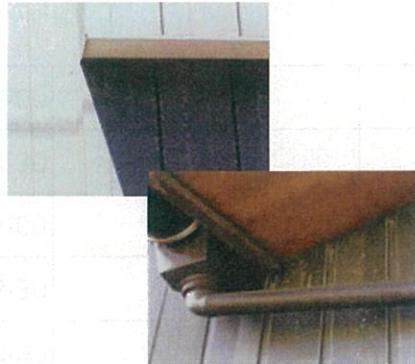
エスジーエルおよびその塗装品は、ガルバリウム鋼板の耐食性を向上させためっき鋼板ですが、ガルバリウム鋼板同様、誤った使用をすると腐食が発生することがあります。エスジーエルの優れた性能を発揮させるために、以下の注意点を熟読され、正しい使用方法・用途にてお取扱いただきますようお願いいたします。

お施主様へ

1. 雨掛かりしにくい部分での早期腐食にご注意ください。

雨がかりにくい部分においては、塩分や酸性の腐食原因物質が雨で洗い流されずに濃縮され、腐食が進行してしまいます。そのため、軒下、庇やバルコニーの下の雨がかかりにくい箇所は定期的に水をかけ、腐食原因物質を洗い流すことを推奨いたします(水洗いの際には屋内への漏水に注意ください)。

雨掛かりしにくい部分での早期腐食事例



雨のかからない部分で汚れが溜まる訳



風で運ばれる埃の中には腐食の原因がいっぱい。

雨の当たる部分は雨で洗い流されますが、雨の当たらないところには汚れが溜まっています。

対策



ホース等で水をかけて、腐食の原因を洗い流してください。

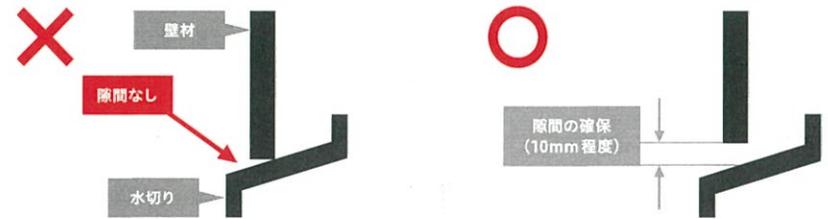
年に数回でも効果は絶大です。

清掃のポイント
 ・洗剤を使用する場合は中性洗剤を推奨します。
 ・表面を傷付けないようやわらかいスポンジや布をお使いください。

設計・加工・施工業者様へ

2. 壁材と水切部材との水抜け用の隙間を確保してください。

壁材と部材の取合い部分において水抜け用の隙間を確保しておかないと、鋼板端部に水が溜まりやすくなり、壁材の鋼板端部からの腐食が発生しやすくなります。そのため、壁材と部材の間には水が抜けるような隙間を確保してください。(10mm程度/金属サイディングマニュアルより)



3. コンクリートとの接触を避けてください。

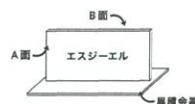
コンクリートは水に濡れるとアルカリ成分が溶出し、接触している鋼板のめっき層を溶解させます。コンクリートとは絶縁させるとともに、雨水や結露の水分が浸入しないような構造を確保してください。

コンクリートとの接触による腐食事例



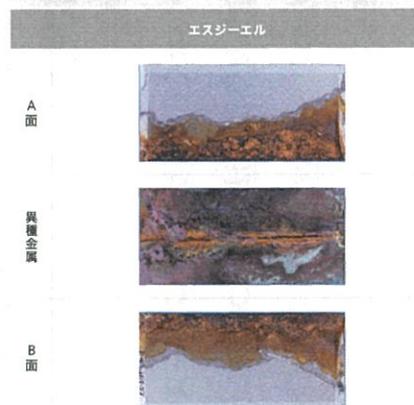
4. 異種金属との接触による腐食にご注意ください。

金属は一般的に、異なる種類の金属との接触により、どちらか電気的に卑な金属の方が腐食します。この現象は「電食」と呼ばれます。電食はガルバリウム鋼板、エスジーエル、塗装鋼板でも発生します。よく見られるのは銅やステンレスとの接触により腐食し、穴あきに至るケースです。接触せざるを得ない場合は、コーキング、ゴムシート等により絶縁してください。

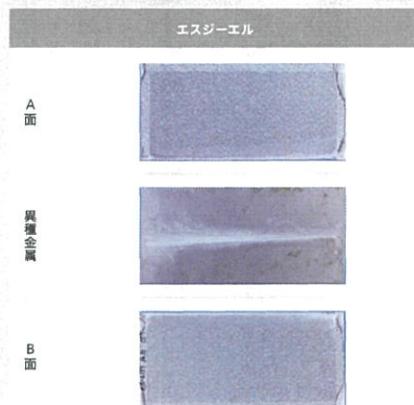


試験方法
JIS H 8502
CCT被食サイクル試験 90サイクル

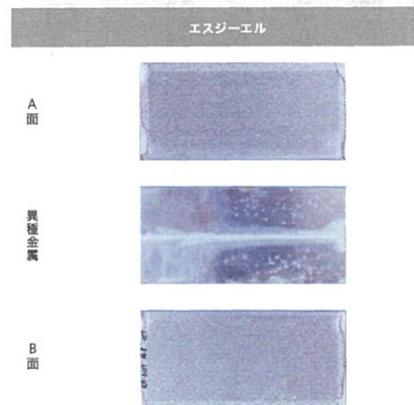
(1) 銅板との接触



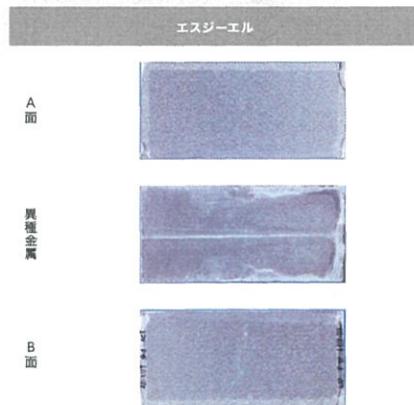
(2) ステンレス (SUS304) との接触



(3) アルミニウム板との接触

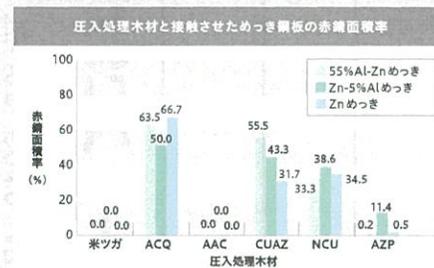


(4) 同種金属との接触



5. 防錆・防蟻剤処理した木材との接触腐食にご注意ください。

最近、木材の耐久性を上げるために防錆・防蟻剤処理された木材が多く使用されるようになってきました。特に銅を含有する処理剤を含んだ木材と鋼板が接触し、さらに結露水等の水分が介在した場合、非常に短期間で鋼板を腐食させます。そのため木材との接触部分はルーフィング等により絶縁するとともに、雨水や結露水等が流れ込まないような構造になるようご配慮ください。



圧入処理薬剤 (木材: 米ツガ)	薬剤の略号
・銅、アルキルアンモニウム化合物系	ACQ
・アルキルアンモニウム化合物系	AAC
・銅、ホウ酸系、アゾール	CUAZ
・ナフテン酸銅系	NCU
・シプロコナゾール・プロベンタフォス系	AZP
[クロム、銅、ヒ素化合物]	[CCA]

6. 屋根の緩勾配による水溜まりにご注意ください。

折板屋根の施工において3/100以下の緩勾配の場合、屋根のペコツキ部等に水溜まりができる可能性があります。そのため、施工の際には水溜まりができないように十分な勾配を確保するようお願いします。

7. 異ロット品の同一面への張り合わせはできるだけ避けてください。

ロット間での外観や色調のバラツキの低減については安定化に努めていますが、異ロットを同一面で張り合わせた場合、色違いに見える場合があります。そのため異ロット品を同一面で張り合わせることではできるだけ避けていただいた方が安全です。やむを得ず張り合わせが生じる場合は、部材への転用や、目立ちにくい部分でのご使用等のご配慮をお願いいたします。

8. 同一方向に成型・施工されるようご注意ください。

とくにメタリック系の色相は見る方向によってはまったく違う色に見える場合があります。同一方向に成型・施工をされるようご注意ください。



9. 施工時のすべり落ちにご注意ください。

成形品を屋根上にのせる場合、すべり落ちることがないように、すべり止めなどの処置をしてください。

10. 施工時の傷付きに注意ください。

土のついた靴で鋼板上を歩行したり、成型品の取り扱いが粗い場合などで発生したキズ付き部分より腐食が発生する例が見受けられます。施工時には鋼板へのキズ付きに十分ご注意ください。

11. 施工後は鋼板表面を清掃してください。

施工時の切粉、ビス・番線の置き忘れやアンテナ固定用針金等が錆びることによって、もらい錆となる可能性があります。そのため、施工後は屋根上に残留物がないよう清掃を実施し、針金等のもらい錆にご注意願います。

使用上のご注意 (まとめ)

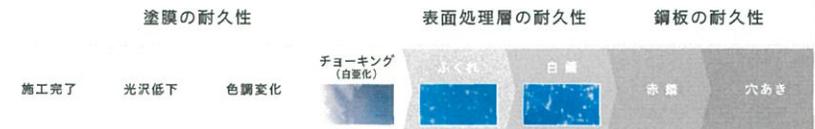
- 運搬**
製品の運搬や倉庫及び施工現場での搬入、搬出の際は、ワイヤーロープを直接掛けしないでください。
- 保管**
屋内で梱包をしたままの状態でご保管ください。もし、やむを得ず野積みをする場合は、直接地面に置くことのないようにし、防水シート掛けをして長時間にならないようにしてください。もし、水濡れした場合は、速やかに成形し、乾燥させてください。成形品をきっちり積み重ねたまま水濡れさせることも禁物です。
- 取扱方法**
鋼板同士を過度に擦り合わせると、裏面塗膜が表面にとられ汚れとなりますのでご注意ください。また、地面の上や凹凸のある所を引摺ったり、鋼板や尖った金具、鋭利な刃物を当てて傷や擦傷を入れたりしないでください。ニスクカラーProの優れた塗膜も傷が入りますと美観を損なうだけでなく、耐久性にも影響しますので丁寧に取扱ってください。
- 補修**
万一誤って傷がついた場合は、専用補修塗料で補修してください。なお、補修塗料は、当社に用意しておりますので、販売店にご相談ください。但し、補修部は、全く同一にはなりません。なるべく傷をつけないように注意して取扱ってください。補修方法については、P22をご参照ください。なお、塩害地などでは、切断部の端面補修をお勧めします。
- 成形加工**
ベンダー加工、ロールフォーミング、プレス成型などの加工を行う場合、加工部の塗膜が剥離しないよう緩やかな加工になるようご注意ください。寒冷時での加工は、加温加工を推奨します。ロール成型の場合、ロール状況によって塗膜に傷をつける場合があります。成形前にロールの汚れ、異物付着及び当て傷などをチェックして手入れをしてください。
また、成型加工時やコイル・シート運搬時に塗膜表面が受けた圧迫痕が傷に見える場合があります。これは塗膜表面の変形によるもので傷や摩耗とは異なります。経時・加温により回復しますのでご安心ください。
- 取付け金具**
取付け金具の材質選定に際しては、異種金属接触に伴う腐食の懸念があるため、耐食性のご配慮をお願いします。塩害地域などでは、プラスチック製キャップや防水パッキンの併用、防水塗料の塗布など、接触部に水が入らないようにしてください。
- 屋根勾配**
屋根に施工する場合、水溜まり箇所ができないように屋根勾配にご確認ください。
- 汚れの除去**
油などの汚れは、家庭用中性洗剤で除去してください。これらで取れない著しい汚れは、少量のアルコールをウエスにしみ込ませて拭き取ってください。拭いた後は、水洗いしてください。

- コーキング材**
コーキング材は、ニスクカラー Proの耐久力に見合う高品質の製品をご使用ください。現在市販されているコーキング材の中では、シリコン系または変成シリコン系の製品をお勧めします。なお、使用に際しては、プライマーの必要なものもありますのでコーキング材のメーカーとよくご相談ください。
- 切粉・鉄粉の除去**
屋上作業による鉄材の切屑、切粉、釘などを放置しますと、鋼板表面の塗膜上で赤錆が発生し、腐食を早める原因となります。できるだけ早く水洗いしてください。これでほとんど落ちます。同様の現象として、鳥の糞、砂、泥、有機物(木の葉)などの堆積も塗膜に有害です。その都度清掃してください。
- 金属粉末の多い環境での表面変色**
周囲に金属取り扱い工場やスクラップ工場・置き場等があり鉄粉などの金属粉末が多く飛来する環境では表面変色に至り洗浄でも汚れが落ちなくなることがあります。金属粉末が多く飛来する環境のご使用は十分にご確認ください。
- 下地材**
ニスクカラー Proの裏面は、防錆処理を十分配慮して設計していますが、断熱、結露防止、防水などに十分ご注意ください。
- 下葺材との接合**
防錆処理した木材又は合板は、めっき鋼板及び塗装鋼板の耐食性に影響する場合がありますので、直接木材又は合板に接触する部分(軒先、けらば、棟包み、雨押え、降り棟、谷部等)には絶縁用下葺(ルーフィング材又はプルーテプなど)で処理して下さい。
- 化学・電食作用**
濡れたコンクリートや湿った木材、銅や鉛などの異種金属が接触するような施工は避けてください。
- 鉛筆等での墨出し**
鉛筆等に含まれる黒鉛は、導電性が高いため、鋼板に付着すると、腐食の原因となります。墨出しには黒鉛を含まない色鉛筆等の使用をお勧めいたします。
- 雨がかりのしない部位の洗浄**
雨がかりのしない庇の裏面や軒裏などの部位は、塩分及び不純物が付着して洗えないため腐食が早く起ります。このような部位は、定期的に水洗いすることが耐久性を長持ちさせる秘訣です。
- 施工上の注意**
成形品を屋根上にのせる場合、すべり落ちることがないよう、すべり止めなどの処置をしてください。
- 防錆成分の溶出**
鋼板の裏面については、常時濡れる環境下では塗膜中に含まれるクロメートが溶出する可能性があります。ご使用の際は裏面側が常時水分に曝されないような設計、もしくはご使用上の配慮をお願いいたします。

メンテナンス

1. ニスクカラー Proの塗り替えについて

(ニスクカラー Proの塗膜劣化プロセス)



ニスクカラーProの塗膜面がチョーキングの末期状態であくれば飲見される状態が塗り替えの適性時期と見なせます。塗り替え塗料には、各塗料メーカーより各種塗料が市販されていますので、使用環境、耐用年数など諸案の上、施工事業者とご相談ください。参考までに下記に塗り替え塗料の性能一覧表を示します。

塗り替え塗料の例

塗料系	コストイメージ	使用部品	推奨耐久年数	推奨塗料
ウレタン系塗料	中	屋根(遮熱)	4~5年	サーモアイUV
シリコン系塗料	高	屋根(遮熱)	6~9年	サーモアイ(1液)SI
フッ素系塗料	高	屋根(遮熱)	7~10年	サーモアイ4F
ウレタン系塗料	中	壁(耐汚染)	8年	ファインウレタンU100
シリコン系塗料	高	壁(耐汚染)	13年	ファインシリコンフレッシュ
フッ素系塗料	高	壁(耐汚染)	16年	ファイン4Fセラミック

注) 推奨耐久年数は、通常環境のもとで1回目の塗り替えを実施後、次の塗り替えまでの推奨年数で保証するものではありません。

2. 部分補修方法について (アクリル系塗料を使用した場合の一例)

(1) タッチアップの場合

塗料名(塗料系)	運用シンナー	希釈率	塗装方法	標準塗布量 (g / m ² / 回)	塗回数	塗り重ね乾燥時間 (20℃)
現地調整 ゴミ、ホコリ、その他の付着物は、完全に除去してください。						
①補修塗料A (アクリル系)	No.105 or No.580 シンナー	0~10%	筆又は刷毛	100~140	1~2回	1時間以上 48時間以内
		②アクリライトNo.500 (アクリル系)	アクリライト No.500 シンナー	0~10%	筆又は刷毛	120~150

(2) 原板が露出した場合

塗料名(塗料系)	運用シンナー	希釈率	塗装方法	標準塗布量 (g / m ² / 回)	塗回数	塗り重ね乾燥時間 (20℃)
現地調整 ゴミ、ホコリ、その他の付着物の除去を完全に行ってください。 # 400~600 サンドペーパーを用い軽く研磨し、錆を完全に除去してください。研磨で発生した研ぎカスも完全に除去してください。						
①ハイボン 20デクロ	エポキシシンナー	0~5%	刷毛	120	1回	16時間以上 7日以内
		②ウォッシュ プライマー	ウォッシュ プライマーシンナー	0~20%	刷毛	40~120
①補修塗料A (アクリル系)	No.105 or No.580 シンナー	0~10%	筆又は刷毛	100~140	1~2回	1時間以上 48時間以内
		②アクリライトNo.500 (アクリル系)	アクリライト No.500 シンナー	0~10%	筆又は刷毛	120~150

- 施工上の注意点**
- 塗り替え塗料の寿命は、現地調整(厚き上がった旧塗膜、浮錆及び油膜、塩類等の除去清掃)の程度により多大の影響を受けます。現地調整には十分留意して下さい。又、劣化した塗膜上への塗料は、早期剥離、剥離の原因になります。
 - 補修塗料は、厚き上がった旧塗膜、浮錆等を除去した後、露出した部分及び仕上げの際、異質不足になりやすい部分に現地調整後速やかに行ってください。
 - 補修塗料は、原則として刷毛塗りで行い、凹凸箇所は塗料がゆきわたるように念入りに塗り込んでください。
- 注意事項**
- この塗料の乾燥時間は、低温になると遅く長くなります。乾燥過程で塗料の塗膜欠陥を生じるおそれがありますので、5℃以下の気温が連続する場合は施工しないでください。
 - 常温乾燥型の塗料です。特にタッチアップ塗装の場合、元の部分とは耐候性に差があります。補修箇所は耐腐蝕力不足となるようお願いします。
 - 塗り替え及び補修塗料については、色相により塗料メーカーが異なりますのでご注意ください。